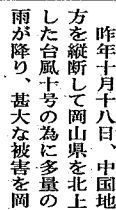
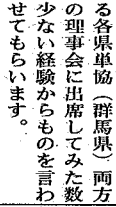


台風10号の被害復旧対策で



県資源リサイクル事業協同組合連合会の小六理事長、津山再生資源事業協同組合の杉本邦夫理事長、岡山資源事業協同組合の平林久一理事長ら五名が津山市役所を訪問、被害に逢われた方々の一助にと義援金三百万円を市長に手渡しました。
 (岡山 佐藤章夫)

森岡伸志



に集中してみれば、また違った局面が見えるのではないかと考えた。まだ大した事を考えついた訳ではないのですが、つだけ例を挙げてみます。

【決算書から会社情報】

身近な何人しかが確かめていませんが、決算書の読み方が分からない、のみならず自分の会社の決算書をききたいと思っている人々が増えては来ません。人間

【青年部に出る環境を】

青年部に一番不足しているのは時間です。こればかりは、親の理解を得られなければ何ともなりません。県でも日資連でもそうですが、青年部に期待するのであれば、親の理解を得られなければ何ともなりません。県

の暮しが掛かった仕事の現場にいる我々は、なかなか高所大所からばかり物を見ていません。それならばいい。自分の足下から、今必要とする事

の暮しに、まず身近な事をしっかりと勉強し、親父に認めさせる。そして、親父には出来ない発想を無責任になづけて行

それが今青年部に求められていると考えます。

青年部長 横田 一夫



とからやる」行動の青年部としての実践が出来れば幸いです。

「リスクはチャンス」と

お願い致しまして挨拶とさ
せて戴きます。

どうぞ、この一年宜しく

この事は各県でも大差ないところだと思えます。

否定的な事ばかり述べま

わね、つつい目先に心を奪われる」からです。私は青年部ですので青年部の側か

に問い合せたところ、飯でも食いながら一回一時間・二、三時間程度で大丈夫であります。そこを組合に補っ

活動狀況報告と今後

日資連青年部〇Ｂ会（谷中勝典会長・栃木）が一月十七日、宇都宮のホルニウイタヤにおいて開催された。〇Ｂ会それぞれ各報告に対し四回目の今回は連絡網の不

の方針協議

弱点など様々な情報を読み取れるそうです。そこから今後の傾向と対策を見つけて取獲です。失うものなどありません。ただし、組合執行部の皆さんの件を率先して、青年部に出示することとして行く事で単なる労働力としてではなく、明日の経営者は翻るがし様のない事

活動^{状況}報告と今後の方針協議

日資連青年部〇Ｂ会（谷中勝典会長・栃木）が一月十七日、宇都宮のホテルニューイタヤにおいて開催された。〇Ｂ会らしく各報告に対して、歯に衣着せぬ意見が取り上げられ、東京の片岡氏より動向状況、都の資源ゴミ拡大の進行状況がそれぞれ報告された。

ける範囲をどこまで広げるか、参加希望者をどのように取りまとめるかは即決できず、今後、谷中会長を中心に調整されることとなる。

出す事も出来るのではない
か。また、その様な提言を
して行く事で単なる労働力
者としてではなく、明日の経
営者としての、親父からの信
任を受ける事になる事は確
かならう。それは第一の大前提であ
るが、まず第一の出す様に
する事が、青年部に出す様
に率先し行部の皆さんの仲
を率先し行部の皆さんと組
みません。ただし、組合執

世に金儲、儲かすものなし。大倒産を及ぼすにほんどの産業に於いて、再編統合が進み近年になり、たいへんな年になってしまったわけです。また、我々業界を見回しても主力商品の「社会」をめざして行政とタッグを組んで行かなければ動が出来ればたいへん大きなアピールになりますし、鉄屑、古紙等の大暴落を受けて実勢に見合うコストも取れないと考えます。具体的

傍と一月と一、四某のため
参加者は現役青年部を含め
て十名にとどまった。
板木の星本氏の司会によ
り会議が進行された。谷中
会長は欲得の挨拶に引き続
いて、横田現日資連青年部
長より青年部活動状況、倉
林間資連会長より日資連活
かし、会への参加を呼び掛
けられた。
また、今後のＯＢ会の運
営方針も討議され、今回の
連絡網の不備による参加者
の少なさが指摘された。対
策として日資連の名簿作成
に習い、ＯＢ会も名簿を作
成する事が決議された。し
かし、会への参加を呼び掛

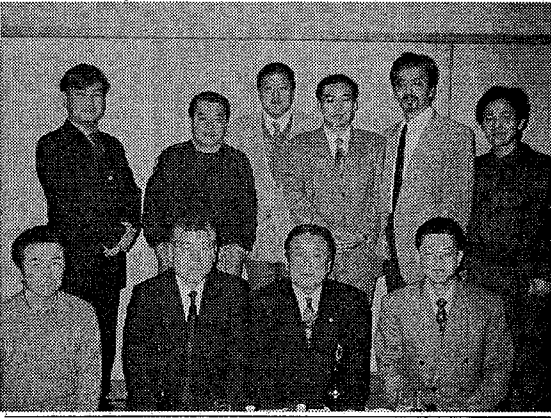
た。結果は次号の「おどす・
れつく」に詳しく掲載する
予定である。

会議を終えた後、宴会所
に場を移し、旧交を暖めた。
なつかしい友と杯を交わ
すことはなんとも楽しいも
のであった。

類も又、違ったものになつて来ると確信します。

青年部は明日の経営者の集まりです。今は修行の時です。ですから、何も親と同じ事をする事はない。親が出来ない事をやいや、親が出来ない事をやらなければ意味がないとさえ言つて良いと思います。

そして青年部は、新米の人達を迎え入れる準備と勉強を続けないといけないやらせません。やらなければならぬ事は山ほどあるのです。努力こそ未来を開く唯一の方法である事を証明しよう。



儲かたか損したかだけではなく、その会社の強さ、弱点など様々な情報が読み取れるそうです。そこから今後の傾向と対策を見つけ出す事も出来るのではないかと。また、その様な提言をして行く事で単なる労働力としてではなく、明日の経営者として、親父からの信頼も又、違つたものになって来ると確信します。

青年部は明日の経営者の集まりです。今は修行の時なのです。ですから、何も親と同じ事をする事はない。いや、親が出来ない事をやらなければ意味がないとさえ言つて良いと思います。

でもらいたい、出られるようにして貰えないかと。それで出て来なくても、元々、出て来る様になれば大収穫です。失うものなどありません。ただし、組合執行部の皆さんの件を率先して青年部に出す様にする事が、まず第一の大前提であります。

そして青年部は、新米の人達を迎え入れる準備と勉強を続けていかなければなりません。やらなければならぬ事は山ほどあるのです。努力こそ未来を開く唯一の方法である事を証明しましょう。

程の問題なのか・と。しかし、これは個人の気持ちの問題になってしまっているので「これは間違いで、こちが正しい」などは誰にも言える事ではありません。ですが、話し合う事で何か問題なのかの理解は得られると思うのです。「大賛成」と叫ばせる事はできなくても、お互いの折衷案は形作られるのではないでしょう。何が問題なのか特定し、それを一つづつ潰して行くのは、決して難しい事ではないでしょう。

そして、その時に「日資連」を示すべきではないかと思います。

何の為に「原局認可」が必要で「原局認可」を勝ち取って何をやるかとするのか。何ができるのか。「何を目標として原局認可を目指すのか」をはっきり言明できないければならぬと思います。それなくしては、意識の統一もあり得ないでしょう。「原局認可」されただけでは何も変わらないのです。それから先何をするか。示せるかどうか。日資連の真価が問われています。これは、今考えておかなければならぬ問題だと思えます。ならませぬし、又そこから始める事で、先「原局認可」に対する問題の新たな突破口が開けて来ると思えます。

（荻岡仲志）

の中全体が沸き返っているのもよい頃ですが、先の見えもない経済情勢に緊縮ムードが漂っている。一年明け最大のニュースといえは欧州統一通貨「ユーロ」の登場でしょうか。共通の通貨を持つことで国際間の経済活動を活性化させようという試み、島国に暮らす我々には今一つピンとこないところもあります。が何はともあれこれを機に世に経済的に新たな潮流が生まれる、さらにはそれが日本経済にも明るい材料を提供してくれるのであれば、実に歓迎すべきことです。

○新年第一弾の「あくす・れっく」いがでてしまっ同、会員の皆様に喜んでいただける会報づくりに努力したいと思っております。

福島県双葉郡浪江町は阿武隈
丘陵を背にして太平洋に面した
穏やかな氣候の町だ。元川商店
(元川雄二社長) (有) 砂金(い
ざさこ) 商店(砂金正男社長) 菅
沼商店(菅沼清社長) がある。果
業者と方々がおられるが人柄の
良さと堅実な経営には定評があ
り私どもも大変お世話になって
いる。

その浪江町の駅前前の観光案内
のボードのかたすみかに「大木惇
夫哀吟碑」という表示がある。

この詩碑は北原白秋門下の詩
人大木惇夫が緑あつて浪江町大
堀に一年ほど滞在し詩集「山の
消息」を書いたことを記念して
建立したものだといふ。

大木惇夫といへば三十年ほど
昔よくくちずさんだ一瀬の歌が
ある。

それは次のようなものである。 見ん、

大東亞戰爭詩集第一輯「海原に
ありて歌ふる」 大木惇夫著
「言友別益(べつげい)の歌」
「暇ふなれ 君よ、わかれを」
世の常を、また生き死にを、
海原(うなばら) のはるけき
果(は) てに
今や、はた何をか言はん、
熱き血を捧(ささ)ぐる者の、
大いなる胸を叩けよ、
満月を盃(はひ)にくくだきて、
暫(しば)し、ただ酔いて勢
が征(ゆ)くはバタビアの
街(まち)
君はよくバンドンを突け、
このタペ相離(あいさか)る
とも
かがやかし南十字(みなみじゆ
うじ)の
いつの夜(よ)か、また共に
う

首
マ
船
田
い
リ
数
尉
あ
邦
が
な
知
る

言ふなかれ。君よ、わかれ、空と水うつところ。黙々と雲は行き雲はゆけるを。

三十年前の昭和四十二年に私は所用でフィリピンのマニラにいた。

後二十年も経っていたが、台湾にはまだ帝國海軍の艦船を残して沈んでいて深ルベージが引き揚げに来て

時は日本食堂もホテルフィナスの裏の「熱海」一軒き、フィリピン全土で邦人の後年見つけた「小野田少を合めても五百人足らずでたように思う。

にかく対日感情は最悪で、総司令官揚げる計画を大使館に検討するといった不穩気が流れていた。その時に社った海軍兵学校出身のあが社マンがこの詩を教えてく。その哀切きわるる詩と彼が出たことを今更のよ

戦争で負けた日本は一生懸命動いて外貨を稼がねばならいんだ。当時の外貨準備高は二億ドルちょよつとぐらゐりなくなつて、この間つづれた山一証券に對して日銀特融が発動されたことと世情混沌としていた時代のことだ。

国を思い、祖国の復興を願つてみんな良く働いたが、その後わが国の状況は今、現実には我々が「負の遺産」を山ほどしよされて叫吟（しんさん）する破目になった。確かに我々がやってきたことは功罪半ばしその手法は大いに反省するところではあるが、当時の若者をものぐるおしほにと仕事に駆り立てたあの熱い思いは何だったのであらうか。

マニラ湾に入港して行く日本船の船尾にひるがえる「日の丸」をみて不覺にも涙した。あのつーんとしたこみあげてくるような思いはいったい何だったのであらうか。あれからたつた三十年しかたつていないのに、時代と共に風化してしまったのであるか。あの「熱きころざし」に類似したものははやどこを探しても見当たらない。そうしたものをも求めて感傷にひたつたわけでは決してないが、あの未曾有の大戦の惨状から立ち直つた原動力がやはり若い人たちの「熱きころざし」ではなかつたかと思う。時に「戦友別々の歌」をくちずさみながら、思いを祖国の未来に託すのだというようなことを真剣に考えていた。

「戦後二度目の敗戦」などと言指摘されるわが国の現状も当時の状況に等しいほどのさんさんたるものにちがいない。

肩に力を入れて意氣がすること力む必要もないが、わが国も我々の業界もそうした青年諸君の「熱きころざし」を切実に欲している。詩人寺山修司は「命棄つるほどの祖国あかま」と歌い、日本の現状を斜にかまえたままで憂いたが、それではない。現状を直視する勇氣をもつてはい。現状を直視し熱き思いをたぎらせてほしい。ころざしを高々と掲げて本當に自分たちの未来を切り開いていくのだ。

標として原局認可を目指すのが、をはっきり言明できなければならぬと思ひます。そればかりでは、意識の統一もあり得ないでしょう。「原局認可」されただけでは何も変わらないのです。それから先何をするか示せるかどうかは日資連の真師が問われています。これは、今考えておかなければならない問題だと思ひなりません。又そこから始める事で、先の「原局認可」に対する問題の新たな突破口が開けて来ると思ひます。

(森岡仲志)

○新年第一弾の「あくす・れく」いかがでしたでしょうか。本年も広報委員会一同、会員の皆様にご喜んでいただける会報づくりに努力したいと思っております。

埼玉県再生資源事業協同組合
理事長 川尻定夫
〒338-0826 浦和市大久保領家343-7
TEL 048 (852) 9048 ・ FAX 048 (852) 9048